質問者
桑野 元澄 議員

龍北工房の今後について

龍野町下川原にある龍北工房は、平成25年度に運営を開始し、平成28年9月からラーメン等を提供する食品部門を営業科目に加えて運営していたが、翌年3月には食品の提供が出来なくなった。この施設には、国から3200万円と市からの450万円の補助金が投入されている。

問 補助金額に見合った事業が出来たと考えているのか。

答 施設を改修し、食品部門を立ち上げ、本格的な実践教育の場として、また、高校生のアルバイト先として店舗運営を行ったことは一定の成果があった。しかし、食品部門が低調になり、目的の達成に至っていないことは指導力不足であったと反省している。

問 将来を担う龍野北高等学校の生徒のために有効に活用しようと考えているのか。

答 龍野北高校定時制課程で学ぶ生徒の人材育成に本施設を活用することが最優先と考え、学校側と協議を進めていく。

県道東觜崎網干停車場線（都市計画道路龍野誉田線）の拡幅について

拡幅要望個所は、179号線堂本中交差点から松原口までの2.8㎞である。一度にすべて拡幅することは予算や沿線の家屋事情もあり、第一に堂本中交差点から南方にある旧ダイエー東側までの150mの拡幅を要望する。この要望は、堂本自治会及び誉田町内の自治会からの要望である。

問 今後、早期に都市計画の変更を行い、拡幅に向けた日程を示すことが出来ないか。

答 本路線は、都市計画道路龍野誉田線として決定から62年が経過している。交通事情が変化しており計画の見直しを検討している。事業実施に向けた日程は、地元自治会及び地権者の理解を得て、市や県の都市計画審議会、法手続きを含め、概ね2年を要する。

市民乗り合いタクシーあかねちゃんの運行について

市民乗り合いタクシー「あかねちゃん」で外出機会が増えたと聞く一方で、現在の運行について改善できないかとの声がある。特に市民病院へ行きたいという声を聞く。

問 このような苦情は把握されているのか。

答 利用者アンケート等により区域外への運行を望む声があることは十分認識している。運行エリアは国土交通省の審査基準で、地区単位となり拡大は極めて困難である。少しでも利便性を高められるよう本年4月に公共交通の運行情報を一冊にまとめた「たつの市お出かけ時刻表」を市内の全世帯、公共施設等に配布して乗り継ぎがスムーズに図れるよう努めている。

質問者
堀 譲 議員

防災対策について

日本は、地震が起きやすく、台風の常襲コースに位置する地理的条件に加え、最近の豪雨の頻発さは、従来と異なる様相を見せている。災害に強い社会をつくることは、政治の大きな役割である。市民の命と財産を最優先に守る市政運営を求める。

問 本市では、合併後、初めて、本格的に、避難所を開設したが、問題点、課題はなかったのか。あったとすれば、今後の改善策をどのように考えているのか。また、避難所開設用の備蓄品には、どのようなものがあるのか。

答 避難者から声を聞くと、暑さに対する対応、災害情報の提供と言った意見があった。8月以降は、防災ラジオを配置し情報提供に努めた。備蓄品には、水、缶入りパン等の食料や毛布等の他に、避難所運営に必要な懐中電灯やヘルメット、事務用品等も準備している。

問 避難所の生活環境整備について、どう対応したのか。

答 学校職員や自治会の方々の協力も得て、水、食料、毛布の配付等の対応に努めた。また、保健師を巡回させ、健康管理にも配慮した。

問 地震によるブロック塀事故対策はどのように取り組んでいるのか。学校施設に関しては、今回の補正予算で修繕及び撤去の対策が講じられているが、通学路のブロック塀についての取り組みはどうなっているのか。国・県・各自治体では、支援制度の創設など補助が行われているが、本市ではどうするのか。

答 通学路について、7月から8月にかけて調査を実施し、学校・教育委員会合同で、点検をしている。危険ブロック塀については、県が創設する支援制度を活用するため、市の要綱も定め、撤去等の対策に取り組む準備をしている。

問 日本列島猛暑の中で、熱中症による痛ましい事故が相次いだ。小中学校でのエアコンの設置が急がれるが、どう対処するのか。文部科学省は、エアコンの設置に関して、学校施設環境改善交付金の補助対象としているが、どう対処していくのか。

答 小中学校の普通教室に対しては、設置済みの5室を除き269室を設置申請し、完備を目指している。特別教室も設置済みの10室を除き139室の設置申請をする。

問 災害時の避難所にもなる体育館についてはどうするのか。

答 体育館については考えていないが、災害避難時の暑さ対策としては、エアコン設置済みの教室の活用を検討する。